

2007 年度 JLA 中堅職員ステップアップ研修（1）

2007 年 12 月 3 日（第 11 回）

領域：高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上（区分 B ）

レファレンスクエスチオンの処理

高田 高史

（神奈川県立川崎図書館）

【指定課題】(1)

アメリカに手紙を出す際、何丁目何番地とは書かず、何通りのどこと書くのを、高校生の娘が疑問に感じていた。わかりやすく説明してあげたい。

調べるポイントはたくさんあります。

【観点】

地誌・旅行、法律、生活、交通、郵便、手紙、英語

【注意点】

『住所と地名の大研究』(新潮選書)では、ニューヨーク、サンフランシスコ(シカゴ)、ホノルルの例が紹介されています。よく読むと「ニューヨークのように南北通りと東西通りに使い分けるかどうかは都市によって異なる」(126p)、「番地の付け方については各都市の歴史の中で決定されてきたようなので全米共通というわけではなく」(127p)などの記載がある。

都市についてはさておき、アメリカ映画とかで、逃走中の主人公が荒野の一軒屋に立ち寄るが、通りで住所表示できるのか、私にはイメージしにくい。

アメリカ(世界)ではごく一般的なことなので、外国人に聞けば難なくわかることなのかもしれませんね。

【私が見つけたのは】

当館でも皆さんと同じように、百科辞典、『住所と地名の大研究』(所蔵案内のみ)などで対応しましたが、インターネット(雑誌記事索引)から雑誌『道路』(No.795 2007/5)で、国土交通省道路局企画課(著)の「通り名で道案内」(特集「社会実験の成果と今後の方向性」)を見つけました。インターネットの国土交通省にも「通り名で道案内」というサイトがあり、内容的には重なっています。

そこでは、新潟市古町の実験が紹介されています。なぜか新潟方面の回答者さんが多かったようですが、私が割り振ったわけではありませんよ(笑)。

【指定課題】(2)

川崎(044)、横浜(045)など、現在のおおよその市外局番は、いつ、どのように決められたのか。

いつ出る情報か？

かながわレファレンス探検隊で、2006年1月に出題された問題を少し加工して出題しました。ネット的には郵便番号の方が面白いのですが、すぐにわかってしまうので…。

かながわレファレンス探検隊の回答集でも、おおむね皆さんと同じような調べ方でしたが、

- ・ wikiの情報が一件もない(当時は項目がなかったのか…)
- ・ 児童書からの回答がある(開始年はなかった)
- ・ 新聞データベースを使っている。
- ・ 自治体の情報、郷土史などを用いた。
- ・ 『関東電信電話百年史』を数名が回答に用いていた。

などの特色がありました。

『電話100年史』は皆さんを悩ませた本ですね。

この本の(巻末)参考文献は、なぜか誰も触れていないし。

法律はどうだろう？

「公衆電気通信報の一部を改正する法律案」(1961.6.8)

いつ出る情報か？

- ・ 最近あまり出ないなら少し古い資料は？
- ・ 東京の市内局番(3ケタ>4ケタ)が変更されたとき？
- ・ 携帯電話との関係で触れられるか？

【指定課題】(3)

以前は50Hz/60Hzの切り替えスイッチが電化製品に付いていたが、最近は見なくなった。どういう技術で自動化されたのか、わかりやすく知りたい。

わかりやすく

【自分の場合】

実際に当館のカウンターで受けていた質問、通りすがりに同僚が調べているのを見て、自分でも調べはじめた...という感じでした。

同僚は家電(59)の本を調べていた。> 記載がない

インバータがわかった。> インバータの本 > 理解不能

専門書がいくらでもあるのがかえってネックになったか、思いのほか、入門的な資料にたどりつくのに手間がかかったというような印象があります。

(わかりやすく)という場合、どの程度が求められているのかは不明ですが、理系だと、ブルーバックス、図解雑学、あたりには目を通したいでしょうか。

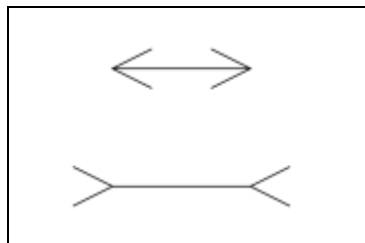
児童書(YA)も可能性がなくはない。

インターネットの方がわかりやすかったという回答もありました。

当たり前になった今ではなく、普及しはじめた頃は、という着想があってもいいかなと思いました。

【指定課題】(4)

以下の図で、中央の線の長さが違って見えるのはどうしてか。説明を探している。



専門的な事柄について

出題自体に言葉の手がかりはありませんが「錯覚」という比較的思いつきやすいキーワードがあって、出題と「同じ図」を探していったのだと思います。「錯視」というキーワードも得られるし、それらを手がかりに蔵書検索などすればいいから、難しくはなかったはず。

もっと難しいネタに加工することも考えましたが、図書館によっては難しそうなので見送りました。

おまけ...

知り合いの心理学の専門家（博士、大学助手）にも、皆さんの回答を見ていただいて意見を求めてみました。

「ある図形の直線の長さが違って見えるのはどうしてか？」について

<ミュラー・リヤー（リエル）の錯視>

主線2本だけだと、物理的な長さが同じ2本の直線は、同じ長さに見えます。斜線(矢羽)を外向きと内向きにつけてやると、物理的な長さは同じでも、長さが違って見えます。

心理学では、人間のものの見え方をクリアに示す例として、教科書でもよく取り上げられ、学部的基础的な実習でもよく使用される現象です。

しかし、どうしてそう見えるのか、ということに関しては、決定的な説明は未だないと思われます。 と私は習いました。

<回答の内容について>

全員の方が、「錯視」という用語および「ミュラー・リヤーの錯視」という現象にたどり着き、的外れな回答は見られなかったと思います。さすがプロ、と思いました。

錯視のメカニズムはいろいろ提案されていますが、決定打がないため、いろいろな説明があります、と提示するのが正直なやりかたではないかと思います。質問者と回答者の双方が消化不良で終わってしまうかもしれませんが、それが心理学における錯視研究の現状ということで・・・。

<ミュラー・リヤー錯視を取っ掛かりとして>

(1) 錯視のバリエーション

ミュラーリヤーをはじめとする幾何学錯視のほかに、色の錯視や三次元で起こる錯視などがあります。デザインや道路などの建設で必要とされる場合があります。テーマパークや展示に用いられたりすることもあります。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~akitaoka>

(2) 錯視量

ミュラー・リヤーの錯視でいうと、主線と矢羽の角度により、どの程度違って見えるのかに差が出てきます。

(3) 最新の研究成果

錯視のメカニズムは未だわかっていないものが多いと習いましたが、最新の成果ですごいものがあるかもしれません。

(4) 心理学の分野

心理学の分野では、知覚心理学の中の視知覚心理学が錯視の研究領域です。

<余談>

あいまいなことばから、ある特定の文献記述にたどり着く、図書館員の方の処理プロセスに興味がありました。

【選択課題】(1)

夜光虫について知りたい。百科事典は見たが、もっと詳しく知りたい。

手がかりの見つけ方

百科事典を見て、どうするか。そこでわかったことを手がかりにして、調査を進めて行くと、いろんなことがわかります。

この出題では、回答は少なかったものの、
動物、植物、赤潮、環境、発光、観光……
など、たくさんの着想がありました。

【おまけ：下記はあるところに書こうとして見送った文章】

先日、カウンターに「夜光虫について知りたい」という方がいらっしゃいました。その方は百科事典を手にしていて「もっと詳しく知りたい」とのことでした。

そんなのすぐに見つかりそうだと思いますが、「夜光虫」で蔵書検索しても文学作品ばかりヒットするし、プランクトンの辞典などを見ましたが適当な記載が見当たりません。光るところから発光というキーワードを思いつき、発光生物の本に出ていた夜光虫のページを提供しました。詳しいというほどの内容ではなかったので、私としてはあまり納得できなかったのですが、お客様は喜んでくださったようです。

後日、環境の棚を書架整理している時、赤潮の報告書が目にとまりました。ふと気になってめくってみると、赤潮との関係で夜光虫の説明が詳しく出ています。

「しまった、赤潮って観点を思いつけばよかったのか。最初にお客様が手にしていた百科事典の項目を詳しく見れば、赤潮との関連も気がついたのに……」

【選択課題】(2)

古代の天皇の名前が付けられた海底の地名はどこにあるのか。

情報はどこにある？

最初にあたられた資料として、だいたい本での調査（4門の参考図書または百科事典）と、インターネット（主にウィキペディア）からの調査が半々くらいでしょうか。

いずれにしてもだいたいのことはわかります。

そこからですが、皆さんの回答を要約するとこんな感じかな...

- ・ 地図
- ・ 海の雑学的な本
- ・ ホットスポット > 地学・地震・プレートテクトニクス
- ・ 地名事典
- ・ 雑誌文献
- ・ 海図
- ・ レフェラル先

ほかにも、いかがですか...

いずれも「どこに情報がであるのかな？」と、うまくイメージできているように思えます。

調べている情報がどこに出ているのかをイメージするのが調べもののコツで、司書はそれがうまいはず、というのが私の考えていることです。

【選択課題】(3)

吉備真備はクモに助けられて難解な詩を読んだらしいが、その詩を知りたい。

こうしたらどうか？

「へえ、こんなところにも出ていたんだ」など皆さんの回答から、私自身、とてもいろんなことを学ばせていただきました。

ちなみに理工系の当館には無関係だと思ったら、『暗号のすべてがわかる本 デジタル時代の暗号革命』(技術評論社)にも出ていて、びっくりしました。

ただし、出題者の立場としては、完全に出题自体のミス。

国史大辞典> 吉備真備(人物叢書)

で、終わられてしまうレファレンスとも言えます。

とりあえず的には簡単であった上、この類の問題は調べてみたくなる傾向があるので、回答が集まりすぎてしまったのも反省点。

演習に際しては、皆さんが多少悩んで、いろんなルートから、いろんな資料で回答していただきたい...というのが出題者側の本音です。

どうしたら、もっといい出題になったでしょうか？

例：「吉備真備」と書かずに「有名な遣唐使」にしてしまう。

【選択課題】(4)

「つまきしきこうほう」の説明と実例を知りたい。土木か建築の関係だと思う。

情報はどこにあるか。

みなさん、すぐ「妻木頼黄」にたどり着いているし、インターネットを使って「妻木式構法」「錠聯鉄構法」もわかったし、さらにデータベース等で関連する文献を見つけている。言うことありません。

さて、そこから、もし本で調べるとすると、私ならどうするか…。

やや建築系の資料にめぐまれた図書館で、という前提ですが。

(1)妻木頼黄の作品がたくさん出ていて、解説も多い本として『日本の建築 明治・大正・昭和 4 議事堂への系譜』(三省堂)。大型本、解説に同時代の作品が多く、防災・防火に関する説明も多いが、はっきり「妻木式構法」「錠聯鉄構法」とは書かれていない。参考として提供はできるであろう。

(2)煉瓦が関係するので、煉瓦から調べる。『日本の赤煉瓦』(横浜開港資料館)。「耐震化の系譜」にて「錠聯鉄構法」が紹介されています。

(3)近代建築全般から。『日本の近代建築(上)』(SD選書)の「耐震構造の導入」の章に、妻木頼黄著の文献を引用してある中「錠聯鉄」がどうたらと書いてあるので、このことかもしれない。『近代日本建築学発達史』(日本建築学会)の「れんが造建築の導入」にも「錠連鉄」がどうこう書いてある。文献が紹介してあり、れんが造補強の報告などが『日本建築技術史』(地人館)に詳しいこともわかる。

(4)妻木頼黄の個別作品にあたる。たとえば横浜の赤煉瓦倉庫の文化財報告書とか。「錠聯鉄構法」で検索すると舞鶴の赤煉瓦がたくさんヒットする。

(5)妻木頼黄に限らず、当時の煉瓦造りの建物を調べる。『東京駅と煉瓦』(東日本旅客鉄道株式会社)の「煉瓦構法今昔 その1 地震と煉瓦」に「錠聯鉄構法」の小見出しあり。説明および各地の建物の写真など。「東京芸大構内に現存する旧東京書籍館閲覧書はその一例」とか。

(6)耐震や防火という観点からも調べられるかもしれない。

(7)各文献の参考文献が有効なもの言うまでもない。

(8)「錠聯鉄構法」は「錠聯鉄」だったり、「締」や「連」の字だったり、誤りで「工法」のこともありそう。

(9)このくらいまで判明すると、建築の書架をブラウジングしていて、「明治」「煉瓦」「防災」……と調べるポイントが把握できているので、すごく調べやすくなっている。まだ探していけると思う。